

わたしの街のなかまたち～三田の里山は今～

中田一真（ごもくやさん）

近年、里山が荒れ、奥山の獣・イノシシやシカなどが人里に進出し、農業被害が拡大している。我々ごもくやさんが活動している北摂ニュータウン（ウッディタウン）でも、イノシシやシカの目撃情報があり、我々が中央公園で保護活動に取り組むササユリ等の植物に対する脅威にもなりかねない。

私は、近郊の里山の様子をもっと知りたくなり、木器地区の古民家周辺で里山管理に取り組む「もりんちゅうの会」のご協力を得て、2020年8月から同地区でも自動カメラによる定点観察を始めた。同地では長年、裏山の手入れがなされていなかった（写真1）。植林地は荒れて竹が侵入し、使われていない田は藪と化し、イノシシ（写真2）やシカ（写真3）が闊歩していた。

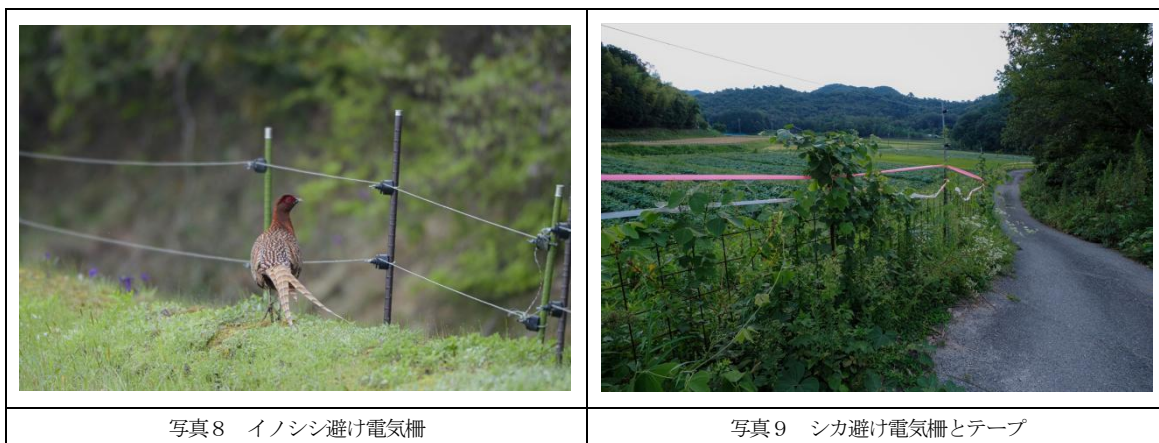


里山の整備が少し進んだ2021年6月、山際の田で試験的に稲作が再開された（写真4）。稲は順調に育ち、8月下旬に稔りの季節を迎えた。

だが、そこに現れたのはイノシシ（写真5）やシカ（写真6）。トレイルカメラには、彼らが防獣ネットの隙間をくぐり、上を飛び越え、稲穂を食べる様子が記録された。食害は3週以上続き、結局その年、米の収穫は断念せざるを得なかった。



三田では年々、山際から平地に向かって、電気柵やピンクのテープに囲われた水田の範囲が広がってきている。低い電気柵（写真8）はイノシシ避け、高い電気柵やピンクのテープはシカ避け（写真9）だ。柵の広がり、すなわちイノシシやシカの生息範囲拡大を現している。



イノシシやシカによるササユリの食害については、インターネットで検索すれば枚挙にいとまがなく、西日本の各地で報道がなされている。

我々が活動する中央公園は、ニュータウン開発により住宅街に取り残されたかつての里山。開発により偶々イノシシやシカが進出しにくい場所となり、ササユリは食害に遭うことなく、命脈を保ってきた。そこに、10数年にわたる持続的な森の手入れが加わった（写真10、11）ことで、明るい林床が維持され、ササユリを増やすこととなった（写真12）。

それは同時に、イノシシやシカといった奥山の獣が身を潜める場所を減らすことにも繋がっている。



コロナ禍の間、三田の里山とニュータウンを行き来しながら、中央公園の森の手入れを続ける意義を改めて確認することとなった。

おわりに

2020年8月から2023年12月の間、三田の里山とニュータウンを行き来しながら撮影した生き物たちのごく一部をご紹介します。キツネ、リス、フクロウ、ホタル・・・みんな、わたしたちの街、三田で生きるなかまたちだ。

三田の里山やニュータウンで出会った生きものたち

